



## カラムシから布をつくる

カラムシは山野に自生しているイラクサ科の多年草で、古代からその繊維が縄や織物などに利用されてきました。現在でも、会津地方の昭和村では伝統工芸としてカラムシ織りが行われており、展示実演施設も整備されています。

まほろんでも、古代の畑でカラムシを栽培しており、当館ボランティアも自主活動としてカラムシから布を作る活動をしています。本年度の実技講座では、当館ボランティアを講師として7月から11月まで3回シリーズでカラムシから布をつくる講座を実施しています。

7月19日の1回目には17名のみなさんが参加し、カラムシの刈り取りからその繊維を取る作業までを行いました。まず、刈り取ったカラムシは水に浸してから皮を剥ぎます。その後、「苧引き（おひき）」と呼ばれる作業を行います。この工程は、表皮を板の上に置いて金属板で引き、そこから余分な部分を取り去り半透明なカラムシの繊維を取り出す作業で、熟練を要します。

この後、8月に乾燥させた繊維から糸を撚り、11月にはアングイン台を使って8月に作った糸から布を織っていきます。

まほろんでは、カラムシとそれから取り出した繊維、さらにそれで作った布を見ることができますので、興味のある方は是非ごらんになってみてください。



## 体験学習

### 第3次「まほろん探検隊」

—今年テーマは「弥生時代体験」です—

1年を通して同じメンバーで原始・古代の体験をしようという「まほろん探検隊」も今年で3回目となりました。1次・2次隊は、「縄文時代」をテーマに体験しましたが、今年は「弥生時代」としました。

活動の中心は「米づくり」です。近所の方の御好意で、水田の一面をお借りすることができました。米づくりの指導にあたったのは、探検隊員でもある鈴木綾さん（小学6年生）。彼女は、おじいちゃんと古代米を育てていて、その研究成果を常設展示の「みんなの研究コーナー」に展示させてもらっています。今回植えた稲の種籾や苗は、綾さんが育てたものを分けてもらいました。赤米や紫米の他、モチつきもしたので数種類のモチ米も植えました。

いざ田植えとなると、苗をどのくらいの間隔で植えるのか、苗をさしながら前に進むのか後ろに進むのかもわかりません。いちいち綾さんに初歩的な質問を浴びせながら、田植えをしました。終わってみると苗の間隔はバラバラ、ひん曲がっていて、機械植えした周りの水田との差は歴然。遠目にも、そこがまほろんのだとわかる、楽しい田んぼができました。

今年は寒かったので心配しましたが、古代米は丈夫



〈まほろんの田んぼ〉

## 鉄づくりイベント

### たたら踏み体験参加者募集

日時 11月1日午前10時～  
11月2日午後2時

場所 まほろん体験広場

福島市の刀工藤安将平氏をお招きして、東日本で初めての古代の本格的な製鉄操業を目指します。

粘土で箱形の製鉄炉を製作し、送風には、実際の踏みふいご（たたら）を作ってそれを利用します。

まほろんでは、当日たたらを踏んでくださる方を募集しています。

参加ご希望の方は当館までご連絡ください。



〈弥生料理〉

なのか、けっこう実が入りました。実った稲穂が左の写真です。いろんな種類の稲を植えたので、ご覧のように稲穂の色も高さもまちまちな田んぼになりました。生育の速度も種類ごとに異なり、9月現在で収穫できそうなものもあれば、まだ花が咲いているものもあります。昔は稲の実る時期に時間差をつけて、危険を分散したと言います。そうすると案外、まほろんの田んぼの姿は弥生時代の水田に近いのかなと思っています。

### 「弥生グルメ祭」のおしらせ

さて、今年まほろん探検隊で古代米を育てたわけですが、隊員だけでは食べきれそうにありません。そこで一般の方にも古代米を味わっていただきたいと思って企画したのが「弥生グルメ祭」です。

まほろんの展示室に入ると、各時代の様々な料理が目をはきまします。これらは、遺跡から炭になって出てきた食べ物や木の実、貝塚から出土した貝殻や骨、木簡に書かれた食べ物に関する文字、当時生えていたであろう植物などから考えたメニューです。弥生時代のコーナーには、赤米で作ったチマキと具だくさんのスープが展示してあります。これをみんなで作って食べてみたいと思います。弥生時代の臼と杵の復元品もあるので、餅つきも合わせて行います。12月7日に実施しますので、よかったら申し込んで、参加してみてください。



## ふくしまの重要文化財Ⅱ

—考古資料 奈良・平安時代編—

期間 10月18日(土)～11月24日(月)

まほろんの秋のてんじは「ふくしまの重要文化財2」を開催します。縄文・弥生時代の指定文化財を紹介した昨年度に続き、第二弾として奈良・平安時代の重要文化財(国・県指定)を展示公開します。

県内のこの時期の重要文化財(考古資料)は12件指定されており、とくに経塚や密教など古代仏教関連の器物が多いことが特徴といえます。展示品の一部を紹介しましょう。

### 1 松野千光寺経塚出土品(喜多方市)

この経塚の発見は古く、出土品は江戸時代に一度発見され、埋め戻され、昭和9年に再発見されたという数奇なエピソードが伝わっています。その中身はお経を入れた銅経筒、それを入れる石櫃(大治五年(1130)の銘が刻まれています)のほかに独鈷杵・磬・五鈷鈴などがあり種類が豊富です。

### 2 流廃寺跡出土金銀象嵌鉄剣(棚倉町)

町の中心部の南東側に位置する丘陵上には平安時代の山岳寺院の跡が無数に確認されています。この中の建物

跡から鉄剣が出土しました。鉄剣をレントゲン撮影すると剣の両側に象嵌が確認されました。梵字と炎の文様が金と銀で象嵌されています。象嵌の内容から、この鉄剣は不動明王像の持つ剣である可能性があります。

### 3 上ノ原経塚出土品(いわき市)

この経塚は平安時代終わり頃のもので、石を積み重ねた小さな石室に銅製の経筒を安置し、石室の周囲を小刀や矢尻で守るように取り囲んだ状況が確認されました。

特に注目されたのは経筒の内側から朱書きの紙本経(法華経)が8巻発見されたことです。平安時代の經典の実物は県内では会津高田町に伝世品があるのみで、貴重な発見となりました。



<上ノ原経塚出土品>

以上のようなことから、今回の復元では、獣脚と容器は製品同士を接合したと考えるより、鑄型同士を組み合わせたものに、鉄を一緒に流し込んだものと結論づけました。この推測は、鑄型からも裏付けられました。すなわち、獣脚鑄型をよく観察すると、接合部分に当たる鑄型の厚みが他の部分より非常に薄い作りとなっています。容器鑄型に獣脚鑄型を埋め込んで接合した場合、必ず、獣脚鑄型の厚みが生じます。接合部分が薄いのは、この厚みを極力減らし、仕上がった製品に、その厚み部分が見えないようにする古代人の工夫のためと判断しました。

このように古代の技術を推測し、復元しました。できあがりを見てみると、一緒に鑄込んだにもかかわらず、獣脚と容器の接合面は、あたかも別々に作って接合したように見えます。もし、古代の遺跡から接合したような状態で鉄製品が出土したら、よくよく観察し、様々な角度から検討を加えないと、接合方法の推測はできないものだ、と痛感いたしました。



<獣脚と容器の接合部分>

<完成した獣脚付き容器>

## シリーズ復元展示

### 鑄型からみた鉄製品の復元 その3

前回、古代における金属同士の接合方法には、大きく3つの方法があることをお話いたしました。今回は、これらとは異なる方法によって写真に示した獣脚付き容器が復元されたことをお話いたします。最初に、前回示した3つの方法を簡単におさらいしてみましょう。

- ①機械的接合法…鋸を使用したり、“かしめ(棒の両端をつぶして止める方法)”で止める方法
- ②科学的接合法…有機系の接着剤(漆や“ニカワ”など)で貼り合わせる方法
- ③金属学的接合法…接合面に何らかの金属を用い、熱して一体化する方法(鍛接や銀鑑などを使用した鑑接技法、あるいは鑄掛け法など)

さて、今回は、いずれの方法も採用しませんでした。それは、機械的接合法の場合、厚さ3.5cmもある鉄製品(獣脚部分)に穴を開けるのが非常に難しいと思われることと、その穴は獣脚の上部にある顔付近に当たるため、顔に傷が付いてしまうからです。また、漆やニカワと言った有機系接着剤では、当然のことながら、接着後、使用に耐える状態にはなりません(火を焚くことなどが想定されますので、燃焼により接合がとれてしまいます。)。さらに、鑑接技法では、局所的に接合箇所を熱しなければなりません。この局所を熱するには、ガスバーナーのように炎の大きさを調整する工具が必要になります。

## 研修課より

### 「教職員のための発掘体験研修」

平成15年8月6日(水)～8日(金)の3日間、二本松市二本松城址で「教職員のための発掘体験研修」が行われ、学校の教職員・遺跡の案内人ボランティア研修中の方など22名が参加しました。

本研修は、発掘調査の実地研修を通して、埋蔵文化財の保護について理解と関心を高めるとともに、実体験をもとに授業に役立ててもらうことを目的に毎年学校の夏休み期間中に行われています。

二本松城址は中世畠山氏の時代から江戸時代の丹羽氏の時代まで使用された平山城の跡で、石垣などが発掘・復元されています。今年度調査が行われた「りんどうの丘東側平場」では、3軒の掘立柱建物跡とそれに伴う瓦、門の跡、石垣、城内の道跡などが発掘され、そこを研修の場とさせていただきました。出土遺物も多く、丹羽氏の家紋である「×」(はすかい)印の入った瓦も確認、2日



＜研修のようす＞

目の午後に行われた二本松城址一周文化財見学は、心と体に残る思い出深いものとなりました。

最後に、研修会場の提供をはじめ全面的な協力をいただいた二本松市教育委員会、さらに発掘調査員・作業員の皆様方に厚く御礼申し上げます。

## 総務管理課より

### バックヤードツアー②

今回はバックヤードツアーの第2回目として、「撮影室」をご紹介します。

「撮影室」は、遺物などを保管している収蔵庫の入り口近くに位置し、文字どおり写真撮影を行うための部屋です。そのため撮影台や照明器具などはもちろんですが、赤外線カメラやフィルム保管ケースも備わっています。

当館職員が展示資料や図録原稿用の写真を撮影するのに使用する他に、当館研修課が随時行っている「臨時館内研修」の一環として、埋蔵文化財を担当されている各市町村職員の方々が、写真撮影の研修のためにも使用しています。

また現在進めている「文化財データベース」への



＜まほろんの撮影室＞

データ入力のために、デジタルカメラによる遺物撮影にも使用しており、本年度中に画像が「文化財データベース」上でご覧いただけるようになります。

## まほろんからのお知らせ

### 年末・年始の休館日について

まほろんは、年末の12月28日(日)から年始の1月5日(月)までの9日間休館いたします。

1月6日(火)からは、平常通り開館します。



### ご利用案内

開館時間 9:30～17:00 (入館は16:30まで)

休館日 月曜日(月曜日が祝日・休日の場合は開館し、その翌日が休館)、国民の祝日の翌日(土曜日・日曜日にあたる場合は開館)

入館料 無料(体験学習によっては、材料費が必要な場合もあります)

その他 団体(20名以上)でご利用の場合は、事前にご予約ください。

期日	講演会・実技講座・イベント	内容	募集締切	募集人数	対象	材料費等
10月25日(土)	館長講演会	シリーズ世界の考古学調査1ヨーロッパ	先着順	60名	どなたでも	無料
11月29日(土)	館長講演会	シリーズ世界の考古学調査2西アジア	先着順	60名		無料
12月20日(土)	館長講演会	シリーズ世界の考古学調査3シベリア	先着順	60名		無料
10月25日(土)	土器の野焼き	野焼き場で土器を焼きます	なし	なし	小学生4年生以上	無料
11月1・2日(土・日)	鉄作り	古代製鉄操業を復元します	なし	520名		無料
12月7日(日)	弥生グルメ祭	まほろんで育てたお米を食べます	11月28日	20名	小学生4年生以上	500円
12月20日(土)	凧づくり	和紙と竹ヒゴで凧をつくります	12月5日	20名	上 (4年生以下は保護者同伴)	200円
1月17日(土)	土偶・土面づくり	粘土で「人形」や「お面」をつくります	12月26日	20名		100円